

研究主題：自己の存在を実感し、共に認め合う子どもの育成をめざして
～互いの価値観を認め合って尊重しあえる生き方～

1. 設定理由

安房支部女性部では、これまで長年にわたり「両性の自立と平等をめざす教育」にとりくんできた。昨年度は地域を挙げて男女ほぼ同数の教諭による授業展開も行なわれた。このような経緯を受け、さらに一步進んだ、ジェンダーにとらわれず「自分らしさを大切に」「互いを尊重した生き方」ができる子どもを育てるためには、教職員の意識改革はもちろん、継続的かつ計画的な授業実践が大切だと認識している。

本年度は、小中一貫教育を推進する鴨川市の教育を生かし、発達段階に応じた継続的な指導や、先を見通した指導計画を整理し実践することで、より一層自己の能力や資質・役割を実感し、性別にとらわれず互いを認め合い助け合えるような子どもが育つのではないかと考え、本主題を設定した。

2. 研究の仮説

自分らしい生き方や働き方について、9年間を見通した学習を展開する中で、互いを認め合う活動を設定すれば、自己有用感をもった子どもが育つであろう。

3. 研究内容

- (1) 安房地域のジェンダー平等教育に関する教育実践の成果と、今後期待される実践を明らかにする。
- (2) 鴨川市男女共同参画計画や、安房支部長狭部会の教職員・子どもにジェンダーについての意識調査をもとに、地域や子どもの実態をつかむ。
- (3) 小中一貫教育の機能を生かし、9年間の発達段階に沿った授業プランを作成。指導案集として各学校に配布し、いつでも誰でも授業実践ができる環境作りに着手。
- (4) 指導案集を活用した授業実践を各学校で行ない、子どもの反応や変容を探り、成果と課題を分析する。

4. 結論

- 地域の男女共同参画計画や教職員・子どもの意識を知り、9年間を見通した指導を考え、各学年で実践したことで、子どもの成長過程による意識の変化を探ることができた。
- 授業で話し合いを重ねる中で、ジェンダー平等に対する気づきや考えの深まりが見られ自分の良さや将来について考えることができた。
- 継続的な指導のために、指導プランのさらなる研究と、教職員への啓発や対話が必要である。

鴨川市立長狭中学校
工藤美智代
鴨川市立曾呂小学校
栗原 恭子